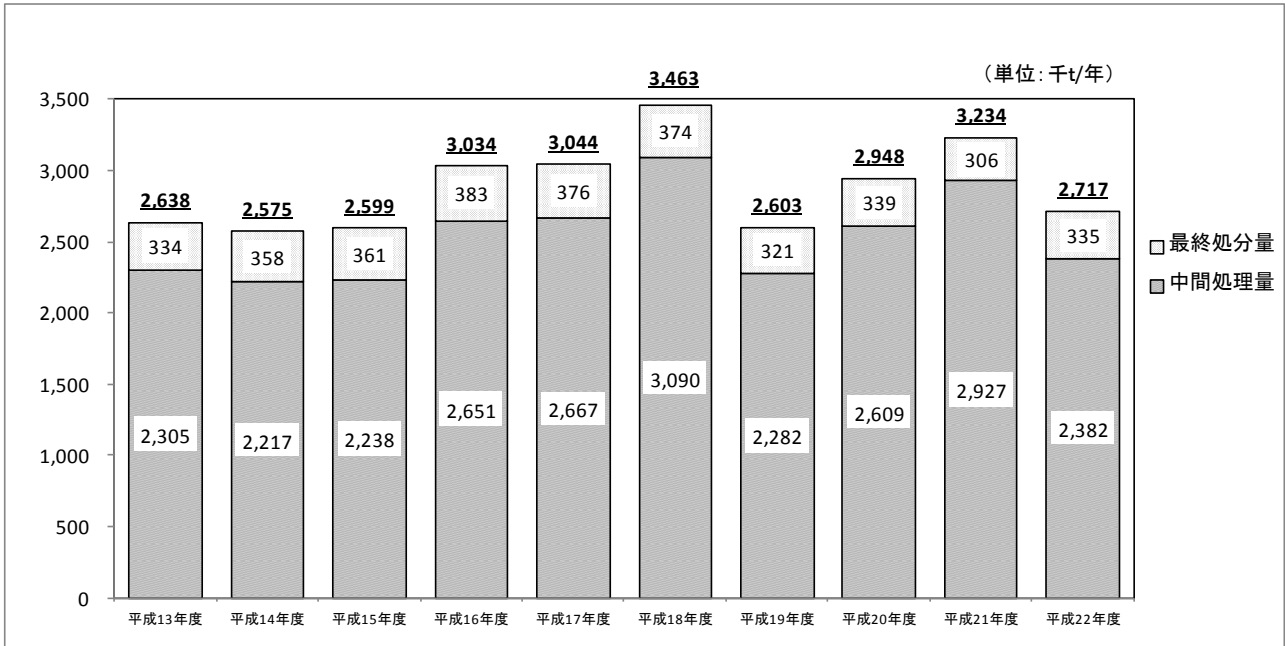


第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第28号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

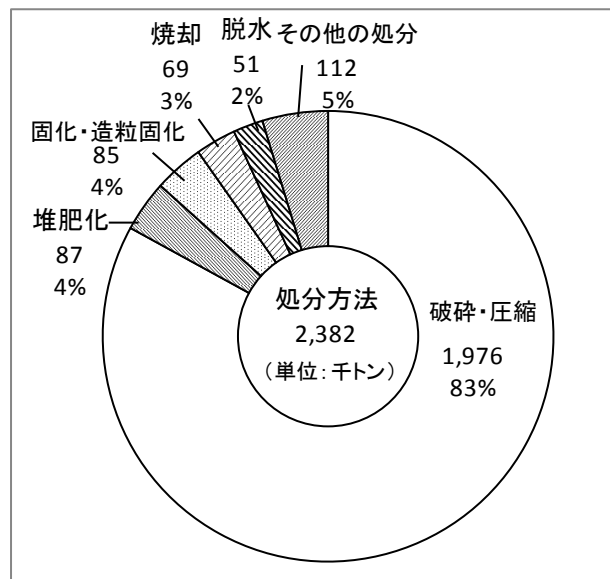
平成22年度の産業廃棄物処理業者の処分量は2,717千トンである。この内、中間処理量が2,382千トン、最終処分量が335千トンとなっている。平成21年度と比較すると中間処理量が545千トン減少し、最終処分量が29千トン増加している。



▲図3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

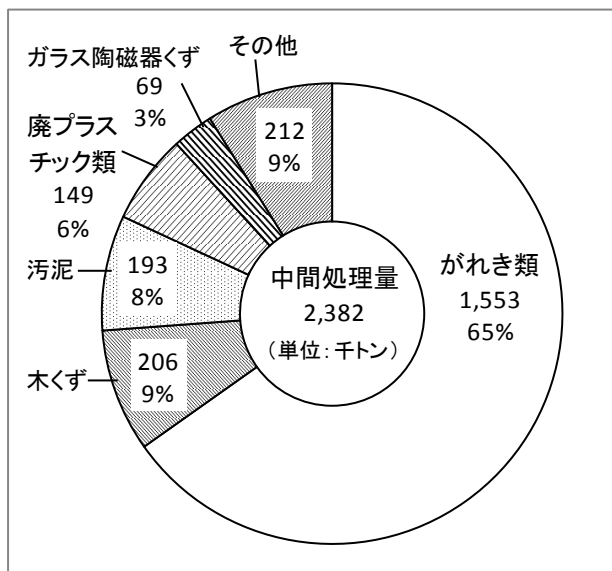
産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が1,976千トン（83%）で最も多く、次いで、「堆肥化」が87千トン（4%）、「固化・造粒固化」が85千トン（4%）等となっている。



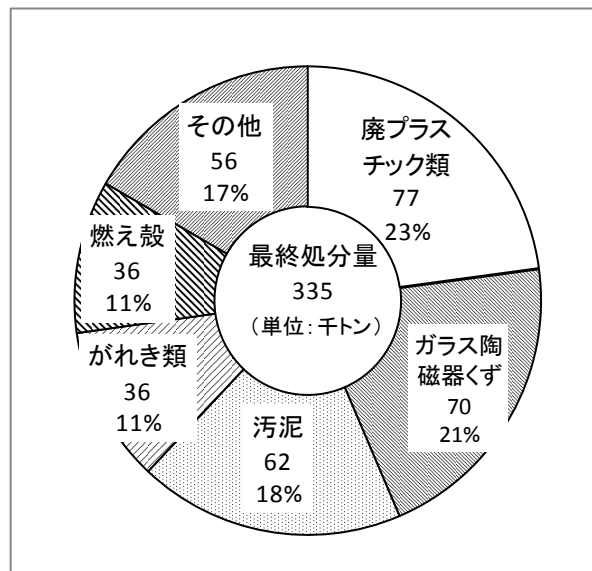
▲図3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 1,553 千トン（65%）で最も多く、次いで、木くずが 206 千トン（9%）、汚泥が 193 千トン（8%）等となっている。最終処分量では、廃プラスチック類が 77 千トン（23%）で最も多く、次いで、ガラス陶磁器くずが 70 千トン（21%）、汚泥が 62 千トン（18%）等となっている。



▲図 3-1-3 種類別の中間処理量

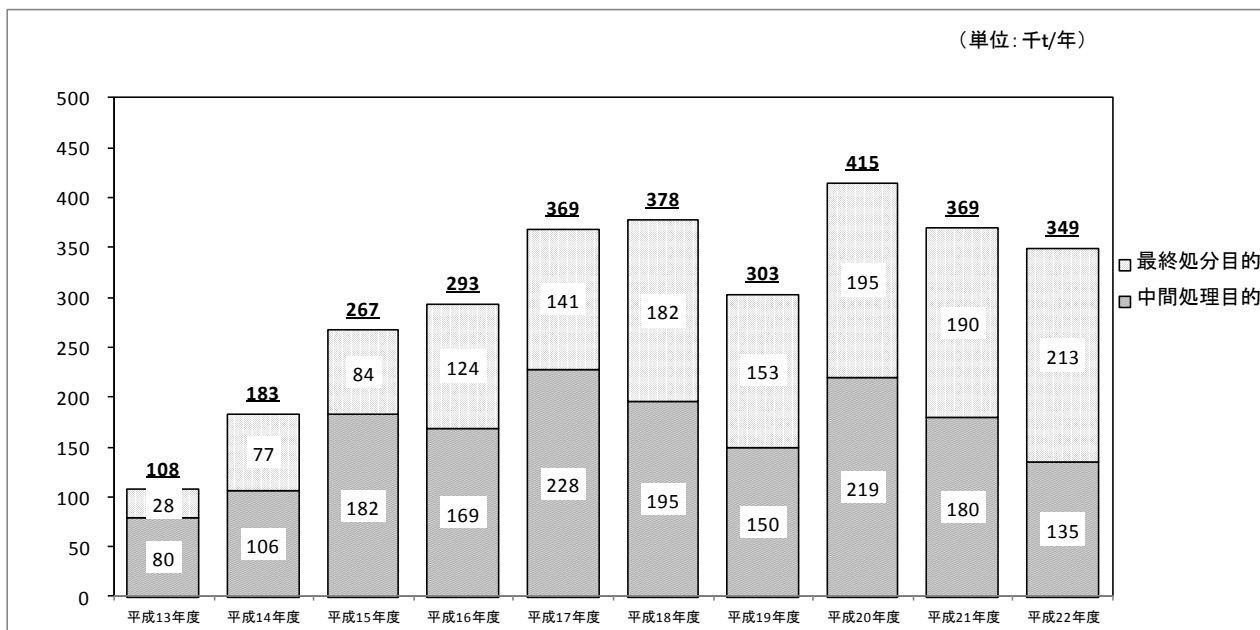


▲図 3-1-4 種類別の最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

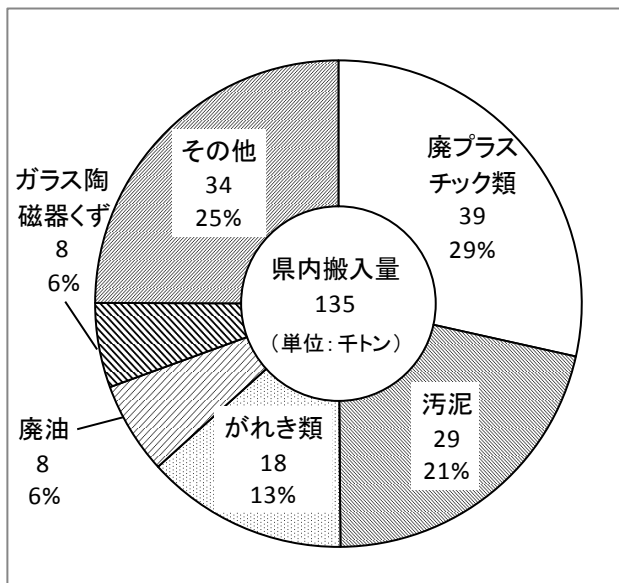
平成 22 年度の県内搬入量は、349 千トンである。この内、中間処理目的が 135 千トン、最終処分目的が 213 千トンとなっている。平成 21 年度と比較すると中間処理量が 45 千トン減少し、最終処分量が 23 千トン増加している。



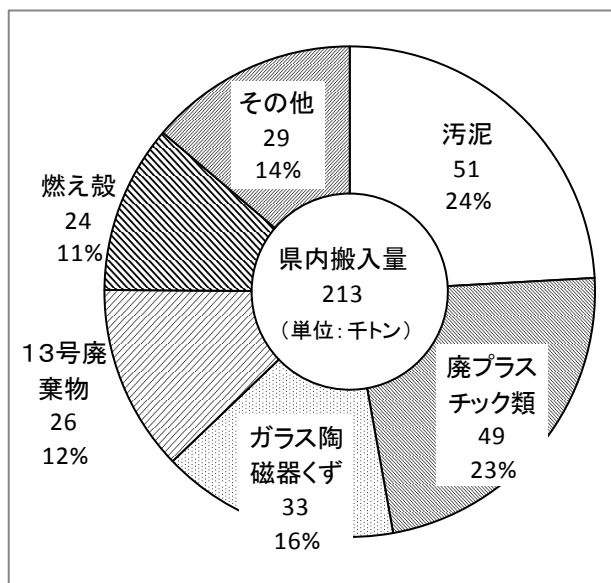
▲図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、廃プラスチック類が 39 千トン（29%）で最も多く、次いで、汚泥が 29 千トン（21%）、がれき類が 18 千トン（13%）等となっている。最終処分目的では、汚泥が 51 千トン（24%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 49 千トン（23%）、ガラス陶磁器くずが 33 千トン（16%）等となっている。



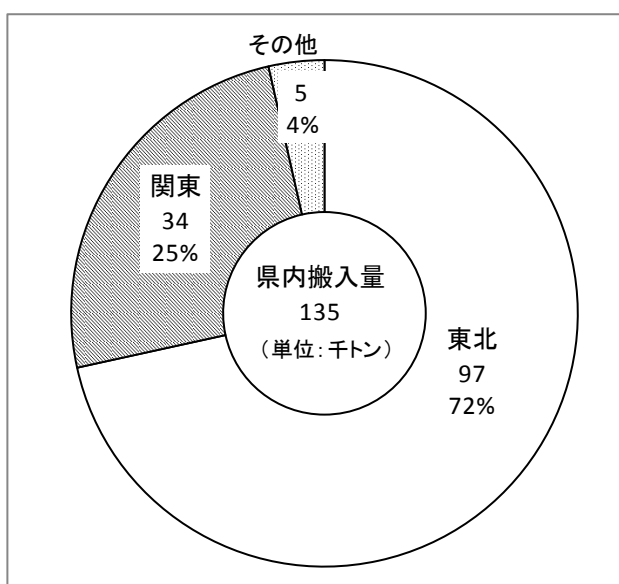
▲図 3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）



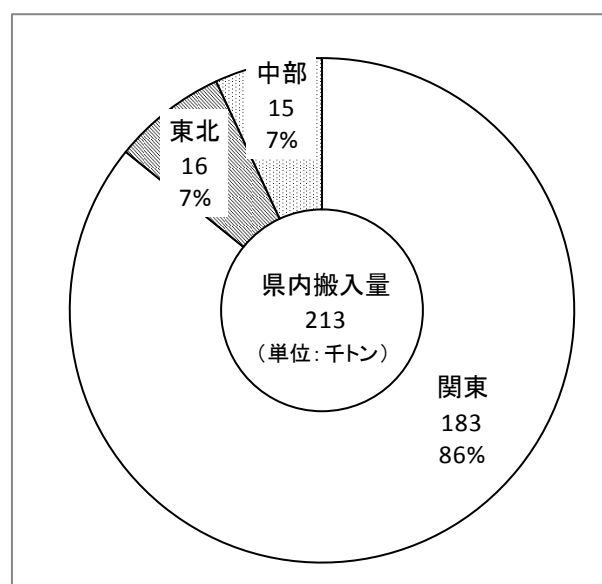
▲図 3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 97 千トン（72%）で最も多く、次いで、関東が 34 千トン（25%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 183 千トン（86%）で最も多く、次いで、東北が 16 千トン（7%）、中部が 15 千トン（7%）となっている。



▲図 3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）



▲図 3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）